


南相馬市鹿島区役所

所長 但野 裕 様

樹木医 鈴木 俊行   
(公財) 福島県都市公園・緑化協会

### 「南右田地区の1本松」調査報告

南相馬市鹿島区の南石田地区に生き残った1本松について、平成25年7月8日に現地調査しましたのでその結果について報告します。

なお、調査には木幡鹿島区産業建設課長、五賀南右田行政区長等が同行しました。

#### 1. 現況状態

本樹は、平成25年6月16日(日)の福島民報に鹿島に「奇跡の一本松」として報道され、それによると樹高約25m、根元周約2mとなっている。

本樹の主幹は、頂部が北西側に緩やかに反るように曲がって伸長し、根元から地上約5.0mまで津波の被害により主幹東側の樹皮が大きく剥ぎ取られ損傷している。損傷患部には樹脂の漏出が多く確認されるほか、生存部ではカサの発達も僅かではあるが確認された。

根系は、太根が四方に張って強く土壌を保持している状態が見られ、これが津波に耐えられた一因ではないかと見られる。また、根元周辺の根系から細根の生育伸長も確認された。

樹冠は、西側だけの片枝となり著しく小さく、下枝や樹冠先端、頂部には枯損も多い。しかし、当年枝の伸長が樹冠全体で確認され、伸長量は3~5cm程度見られた。

土壌は、根元周辺は津波により抉られたように凹んでいるが、その周辺は20~30cm程度の盛土が見られ、やや湿った状態の土壌であった。これは、大震災による地盤沈下と地下水位の上昇によるものではないかと推測される。

#### 2. 診断

現況の樹勢状態は、現在の地上部及び地下部の状態、さらに樹脂漏出調査による総合的な健康診断を実施し樹勢状態を診断した。

外観的には当年枝の伸長が確認されたことや、主幹樹皮損傷患部に多くの樹脂漏出が見られること、さらに、健全部への樹脂漏出調査の結果においても検査箇所樹脂が短時間でたまり流出したことから、現状では異常はなく健康と判断される。

しかし、樹体全体に枝枯れが発生していることや、樹皮の損傷が大きいこと、津波による根系の断裂が考えられること、地下水位や地盤などに変化が見られることなど総合的に判断すると現段階では比較的良好な生存が確認されるが、完全に健康な状態ではないことから、今後、さらに枝の枯損が発生するなど衰退が進むことも考えられ、生存が完全に確約できる状態ではないことも確かである。

こうした衰退を最少にするため、周辺地形や環境、土壌を保全するとともに注意深く観察し、症状に応じ速やかに順応的に対応していくことが大切である。

以上